

# 植物栽培用珪藻土ウレタンを用いた商品開発

花き生産コース 柳下 ゆう  
(指導教員: 前田 宝秀)

## 1. 目的

日本政策投資銀行(2025)によると、花きの個人消費額は 2014 年から 2024 年にかけて 8.3% 減少している。そこで私は、花きの需要拡大のため珪藻土ウレタンを用いた新たな商品開発を行った。珪藻土ウレタンとは、2021 年から本校と愛知県岡崎市にあるニッポー工業株式会社で開発している、植物栽培用としてウレタンに珪藻土を混合した素材である。

## 2. 珪藻土ウレタンを用いた推し活商品開発

花きの消費量は年々減少の一途をたどっており、特に 34 歳以下の若年層ほど購入金額が少ないことがわかったため、多くの若者が行っている「推し活(おしかつ)」と関連づけた商品開発を行うことにした。「推し活」とは、自分が好きな人物やキャラクターなどを応援する活動のことで、例えばライブやイベントへの参加、グッズの購入などがある。そのグッズを飾るときに使うものとして開発した。

### ①制作工程

ニッポー工業株式会社に本商品の提案をした。私が考案した「六芒星のステージ」、「推しミニ壇」と、ニッポー工業が考案された「六芒星のステージ 2」、「五角形のステージ」の計 4 種類の形に決めた。加工された珪藻土ウレタンが届いた後、塗料やスプレーで着色をし、多肉植物を挿し木した(図-1)。以上の工程を経て完成した商品は、イベント販売実習で実際に販売した。



図-1 開発した商品

### ②販売結果

2025 年 10 月 25、26 日、ぎふワールド・ローズガーデン(WRG)にて 1 個あたり 800 円で販売した結果、購入者は現れなかった。この結果から、商品設計や販促方法について再検討する必要が考えられた。

### ③考察

既存の生花店を参考にして、本商品をターゲットの手に取ってもらうために効果的なマーケティング方法を考えた。坪井花苑に設置されていた POP には、ランキング形式や花束、アレンジの注文方法が記載されており、お客様に寄り添いつつ、親しみを感じられる形

になっていた。また、青山フラワーマーケットは駅近などに店舗があるため、幅広い層の

人々が移動のついでに立ち寄れるようになっている。以上の2店を参考にすると、人通りの多い場所に加え、商品の魅力を簡潔にまとめたPOPを設置することで、興味や購入意欲が促されると考える。

### 3. 器を加えた珪藻土ウレタンの商品開発

珪藻土ウレタンは強く触れるとウレタンに付着させた珪藻土が剥がれ、土と同じように周囲を汚してしまうことがある。このことを防止する方法として、一合枠とレザー端材を珪藻土ウレタンの器にすることにした。この商品は、本校の各イベント時や既存の園芸店で販売し、その際のお客様の反応をアンケートなどにより調査した。

#### ①販売結果と考察

販売結果は以下のとおりである(表-1)。販売結果やアンケート調査から、本商品は消費者から概ね良好な評価が得られた。価格についてみると、花苗類と同様に低価格が重視される傾向が見られた。しかし、利益確保のためには価格の引き上げが望ましい。東谷山フルーツパークの販売ではそのことを重視し、高めの価格設定にしたにも関わらず、販売数は陳列数の半分以上であったため、アンケート調査で示された購入希望価格を上回っても購入意欲は低下しないと考える。また、2025年のイベント販売実習では季節性のある器を販売したところ、年間を通して観賞可能である多肉植物との相性が悪いことがわかったため、イベント終了後もインテリアとして継続的に楽しめるような工夫をする必要がある。

表-1 珪藻土ウレタン商品の販売結果

	販売場所 販売時期	WRG (イベント 販売実習) 2024年10月	WRG (イベント 販売実習) 2025年2月	WRG 花トピア 2025年5月	なんじゃ祭 2025年6月	WRG (イベント 販売実習) 2025年10月	東谷山 フルーツ パーク 2025年12月
一合枠	販売価格	1,000円	-	700円	400円	1,000円	1,500円
	陳列数	10	-	10	11	10	6
	販売数	10	-	1	11	8	4
レザー端材	販売価格	-	880～2,400円	1,000円	800円	800円	-
	陳列数	-	7	5	4	6	-
	販売数	-	4	1	3	3	-

### 4. まとめ

花きの需要拡大のため、2種類の商品開発を行った。器を加えた商品の販売結果より、消費者から高い評価を得ていることがわかったが、推し活商品はターゲットとなる若年層からの反応を得られなかった。このことから、推し活商品にもレザー端材などの器の使用や、若年層の利用が多いSNSでの情報発信を行うとともに、アンケート調査や試験販売を通じて珪藻土ウレタンを用いた商品の魅力を伝えていきたい。